

しなければならないこと

ルカ17章5-10節

使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなかろうか。命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならないことをしただけです』と言いなさい。」

説教

使徒たちが、「わたしどもの信仰を増してください」と言ったとき、主は言われた。

「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に、『抜け出して海に根を下ろせ』と言っても、言うことを聞くであろう。17:5-6

「信仰を増して」とは、信仰を篤く、もっと大きく、もっと深くという意味だと思います。この使徒たちの願いに対するイエスの答えは厳しいもので、信仰はたくさんあるとか、ちょっとしかないという話ではない。からし種一粒でも、つまり、ほんの少しでも信仰があれば桑の木が動いて海に入る、でした。信仰はもっともっと、という量の問題ではなく、有無（ありなし）の問題だ。量が問題になるのではない、信仰の年季が問題になるのではない、信仰するか、しないか、あるかないかの問題だといえます。それが「からし種一粒」が意味することでしょう。それと同時に、信仰はとてつもない力があるといっています。なにしろ、桑の木が自ら動いて、海に根をおろすので

すから、これは奇跡です。

ルカの福音では「桑の木が海に根を下ろす」ですが、同じ内容のテキストがマタイ 17:20、マルコ 11:23 では山が海に入るとなっています。山にしる桑の木にしる、どっちにしても常識では考えられないことがおきるのだということを比喻としていっています。キリスト信仰にかぎらず宗教一般では信仰を超能力のように考えません。ということは、イエスの祈りだから山が動くのだとは教えません。わたしたちはとにかく信仰や祈りを超能力や呪術のように考えがちですがそうではありません。これは信仰を理解するポイントの一つです。

さて、桑の木に続いては話はかわり、主人と僕のはなしになります。ここでイエスは「仮に」あなたが主人の立場だったら、こうなるだろうという話から始めます。

あなたがたのうちだれかに、畑を耕すか羊を飼うかする僕がいる場合、その僕が畑から帰って来たとき、『すぐ来て食事の席に着きなさい』と言う者がいるだろうか。むしろ、『夕食の用意をしてくれ。腰に帯を締め、わたしが食事を済ますまで給仕してくれ。お前はその後で食事をしなさい』と言うのではなからうか。17:7-8

冒頭の信仰を増す話題とは関係なく、ここからは謙遜の勧めを説いているという解釈もありますが、イエスが続けてこの話をしたのかは別にして、ルカ福音書がこの話を桑の話に続けて編集している、記述していることにはなんらかの狙い、意味があるはずです。

命じられたことを果たしたからといって、主人は僕に感謝するだろうか。あなたがたも同じことだ。自分に命じられたことをみな果たしたら、『わたしどもは取るに足りない僕です。しなければならぬことをしただけです』と言いなさい。」

イエスにこのように喩えを説明され、そのまま受け止めると、主人のことを聞くよい僕の話となります。しかし、これを謙遜の勧め、よい奴隷・しもべの手本の話としてこの話を解釈すればいいのでしょうか。イエスはこん

な月並みなことしているだけなのでしょうか。

テレビの時代劇をみているとこんな場面がよくでてきます。町娘が遊び人どもに絡まれて、困っています。するとそこに浪人風の男が通りかかり娘を助けます。娘はお礼をしたいといいますが浪人は断ります。せめて名前だけでもとくいさがる娘に浪人は「当たり前のことをしてだけです」といって立ち去ります。

もし桑の木がしゃべれるとして、海に入れと命令した人にたいして「当たり前のことをしてください」と返答したとすると、この桑の木のはなしと良いしもべの話はつながります。7節の冒頭の「もしあなたがたに僕がいるとして」というイエスの前置きが伏線として生きてきます。

誰でも自慢したがるものでしょう。自慢しないで、当たり前のことをしてください、とはなかなかいえません。しかし、桑の木は、よい僕は、当たり前のことをしてください、さらに踏み込んで「**しなければならないことをしてください**」だといえます。信仰をとおして、そのような者になることをイエスは使徒たちに、そしてわたしたちにも教えています。

補足ですが、キリスト教会はこの教えを中の主人に従う謙遜なしもべだけを取り上げて、主人にはさからわない従順さを求めるようになります。聖職者のいうことには従えから始まり、為政者、支配者のいうことには服従しろ、となり、為政者のために祈れ、とエスカレートします。これはイエスの教えを一面しか理解していません。桑の木が海に入るように、からし種ほどの信仰があればどんなムチャな命令でも命じられた者はおこなう、できるという点が見落とされています。
